



「短歌を学んで短冊を書こう」

小学生短歌受賞作品発表!

みなさん、今年も七夕イベントにご参加いただき、ありがとうございました。どの歌も一生懸命考えたあとが見られとても嬉しかったです。これからも「地頭(じあたま)を鍛える」べく、共によりよい学習をつみかさねていきましょう。

短歌選考委員会委員長 関野

特賞(一名)

☆夏の夜 空を見上げて 流れ星

夜中に見たら こんぺいとうだ

【受賞者 石橋 倫也くんのコメント】

頑張って考えた作品だったので、選ばれてうれしかったです。

【東葛飾中講座 片岡より】

南蛮由来の金平糖にたとえることで、外観だけでなく、流れ星の異界感までもみごとに表現。



金賞(一名)

☆かぞくとの しあわせなとき いつまでも

ずっとたのしく つづけばいいな

【受賞者 竹谷 晴くんのコメント】

まさかの賞をもらえたことをびっくりしています。金賞ありがとうございます。

【流山おおたかの森教室長 佐々木より】

しあわせなようすがめにかぶ、とてもあたたかいうたですね。

銀賞(二名)

☆暑い日の 風がしらせる 夏祭り

心おどらせ ゆかたじゅんぴす

【受賞者 羽鳥 絢乃さんのコメント】

多くの短歌の中から銀賞に選ばれてうれしいです。

【柏教室長 五日市より】

夏祭りを楽しみにしている情感がふわりと伝わってくる名作。銀賞おめでとう!

☆あじさいに 花々ついて あざやかな

雨上がりには かがやくしずく

【受賞者 佐藤 綾香さんのコメント】

大好きなお花の短歌で銀賞をとることができてうれしいです。

【流山おおたかの森教室長 佐々木より】

きれいなうたですね、綾香さんもしずくのようにかがやきましょう!

銅賞(九名)

☆ぼくの夢 プロ野球選手に なることだ

宇宙飛行士にも なりたくない

【受賞者 浅井 慶二郎くんのコメント】

七夕なので自分の夢がかなうように心を込めて書きました。

【我孫子教室長 高寺より】

プロ野球選手と宇宙飛行士の二刀流。夢を語るって素敵ですね。

☆来年は 新潟に行くたのしみだ

雪は冷たく 心はずむ

【受賞者 青山 晃大くんのコメント】

賞をとれたので、うれしかったです!

【江戸川台教室長 樫村より】

白銀世界の情景とワクワク感。温度感までも伝わってくる心温まる歌ですね。

☆流れ星 時々見つけ 喜んで

ささの葉ゆれる もうこの時期か

【受賞者 石川 瑚春さんのコメント】

賞を取りたかったので、とてもうれしです!

【柏教室長 五日市より】

宇宙の広大さと、地上での季節感が味わえる名作。銅賞おめでとう!



☆今年こそ ぜったいいくぞ 大阪に

お兄ちゃんに あうために

【受賞者 蓮尾 結彩さんのコメント】

この短歌のように、お兄ちゃんに絶対会いたいです。

【新柏教室長 松尾より】

言葉を超えた想いが込められた優しい歌ですね。受賞おめでとうございます。

☆六年生 卒業までが 一瞬だ

未練残さず 楽しく暮らす

【受賞者 桑原 諒介くんのコメント】

最初はともおどろきました。初めて受賞してうれしかったです。

【流山おおたかの森教室長 佐々木より】

あつという間に卒業です。全力で暮らせるといいですね。

☆サッカーの あこがれ選手 ネイマール

たまにはしたい ハットトリック

【受賞者 山口 碧唯くんのコメント】

自分の短歌が銅賞に選ばれるとは思っていませんでしたのでうれしかったです。

【パーソナル我孫子教室長 上田より】

ネイマールのように活躍する姿、応援できる日を楽しみにしています。

☆チアダンス 練習の成果 はつきして

トロフィーかたてに 輝く笑顔

【受賞者 伊澤 ひかりさんのコメント】

こんな賞がもらえて本当に嬉しいです。

【パーソナルおおたかの森教室長 矢上より】

ダンスに一生懸命なひかりさんの様子がわかる短歌でした。

☆なつやすみ おきなわのうみ たのしみだ

バナナボートと キヤニオニングと

【受賞者 松田 いおりさんのコメント】

七夕の短冊が銅賞になってうれしいです。願いがかないますように。

【パーソナル柏教室長 山崎より】

沖縄旅行への意気込みが感じられる一句です。楽しんでね。

☆この時期は うろついているよ 虫の蚊が

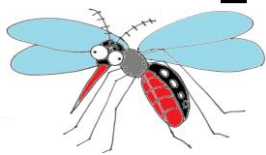
これを書いていもなくはない

【受賞者 上條 梢さんのコメント】

とてもうれしいです。時間をかけて考えたかがあります。

【パーソナル新松戸教室長 小澤より】

ご本人のユーモア溢れる性格がよく表れている作品だと思います。



「信用」とは

最近、スーパーに行くとき、買い物に時間がかかる。かねてから商品の表示には注意を払っていたが、中国製冷凍食品の薬物混入や産地偽装などの報道を見ると、細心のチェックをしなければならぬと思うようになった。

先日、レバニラ炒めを作ろうと、スーパーに野菜や肉を買いに出かけたときも、野菜一つで私は大いに悩んでしまった。ある野菜にはこう記されていた。「原産地・〇〇県・〇〇」というような表示。国産のようだが、よく見ると表示の欄外に「インド産の〇〇を使用して……」とある。要するに種はインドから取り寄せて、国内で成長させたというらしい。曖昧すぎて理解に苦しんだのは言うまでもない。国産か外国産かをはっきりしてもらいたい。「原産」という紛らわしい言葉は使つてほしくないのである。その他にもやたら細かい文字を使っている表示やホームページにアクセスして原料を閲覧できる等々。それもチェックしなければならぬのか。

私はどつと疲れた。確かに情報公開という点では信用できるかもしれないが、どこか信用の押し売りをされているようで、かえって不安になる。情報は示されているので、見ないで食べた私たちが責任を負うような印象を受けた。「信用」とは何なのであろうか。私は考えてみた。

今年の春先の読売新聞だったと思う。「信用」をめぐる世論調査を実施していた。「あなたには信用できる人が五人以上いますか」という質問に対して、「はい」と答えたのは約八%であった。「いいえ」との答えが約七十八%という結果であった。記事の論調は、信用できないという人が多い、だから「社会生活の基本である『信用』が崩壊しつつあるようだ」というものであった。



そもそも「信用」とは、「信じて用いる」、つまり、「あなたはこう言ったのではないですか」と相手に責任追及できるという意味である。商品表示であれば、「安全と言っているのに……おかしいじゃないか」と言い返せることができることである。

読売新聞の世論調査では「信用している」ランキングの一位は家族だった。家族はお互いに責任を取る覚悟ができていくことなのだろう。

さて、前置きが長くなったが、今の生徒諸君に照準を合わせてみよう。君たちにも家族がいるはずだ。塾や学校から帰ると、君においしいご飯を作ってくれる。君たちが勉強していると信用して、君のために学費や塾の費用を稼ぐ親がいるはずだ。では、君たちはあれこれ世話をしてくれる親を信用しているだろうか。おそらく「信用しているに決まっている」と返事がありそうだが、本当にそうだろうか。信用しているならば、その信用をかたち、つまり行動として返しているだろうか。もう一度、「信用」についてじっくり考えてみる必要があると思う。(松尾)

読書は最高の娯楽

数か月前に、『星の王子さま』という本を購入しました。ご存じの方も多いいのではないのでしょうか。砂漠に不時着した飛行士が、遠くの星からやってきたという少年、「星の王子さま」と出会い、絆を深めていくお話です。

私は、小学生のときに図書室で初めてこの本と出会いました。その時は「本当にこんなことがあるなんて」と、自分がまだ足を運んだことのない地での物語に、ワクワクした記憶があります。

二回目に「星の王子さま」を読んだのは高校生になってからです。さすがにもうフィクションだと知ったうえで読みましたが、とても感動したことを覚えています。

そして数か月前、再びこの本と出会い、懐かしさから購入したのです。社会人になってから読み返すと、またいろいろな場面やセリフが心に沁みます。

もちろん、本そのものの自体は、文の形も、内容も、結末も何一つ変わっていません。しかし、人生のある段階で読み返すと、まるで新しいお話に出会ったかのように物語の受け取り方が変わるのです。そして、社会人になってから思わずこの本を手にとったことは、私の成長において、それがいかに大切な存在になっていたのかを証明してくれたような気がします。

さて、この世界には数えきれないくらいたくさん本があります。子供が読むには少し難しい本から、「星の王子さま」のように、大人が読むには一見易しくみえる本まで様々です。

しかし、一冊の本は、どのようなものでも、未熟な自分が読むことで、ある一つの意味を成し、また思春期の自分が読むと別の意味を浮かび上がらせます。さらには成人した自分が、あるいは人生の佳境にいる自分が、というように、読み手の成熟度によってそれぞれ固有の意味を成します。

このように、本が私たちの価値観を築き上げ、私たちの人生を変える扉になる一方で、私たち読み手も、その本の在り方を変えているのです。そ



れは本当に素敵なことだと思います。皆さんも、本をたくさん読んでください。新しい本が、新しい出会いを待っています。そして、数年前に読んだ本を今一度手に取ってみてください。ずっと棚に置かれた本が、成長した皆さんを待っています。

最後に、もし今読んでいる本があったら、ぜひその感想をどこかに綴ってほしいのです。

残念ながら今の私は、小学生の私や高校生の私が「星の王子さま」から何を受け取ったのかを、一つ一つの言葉にすることはできませんし、タイムスリップでもしない限り、全く同じものを再び受け取ることもできません。私は今、それをとても後悔しています。読んだ本の感想を綴ったノートがあればなあ、と何度も思いました。

難しい言葉を使わなくてもいいし、かしこまった文章でなくても構いません。その時の自分の心をそっと覗けるようなノートを作って、大切にしまっておいてください。そして数年後に、過去の自分と感想を語り合うような、素敵な時間を過ごせたらと思います。(隅)